

「2021年度 計測会総会 発言録」

2021年9月25日

13:00～13:50

(司会: 小澤)

司会をやらせてもらいます小澤と言います F59 ですよろしくお願ひします。

それでは 2021 年度の計測会総会を開催いたします。

それでは計測会会長挨拶寺倉さんよろしくお願ひいたします。

(寺倉さん)

皆さん今日は。計測会会長の寺倉でございます。前会長の守田さんから、今年の4月にバトンを引き継ぎました。よろしくお願ひ申し上げます。

今回の総会は、コロナ禍、オンラインで開催しております。最初にご来賓いただきました方々のご紹介でございます。名古屋工業会からは理事長の加川様、同じく常務理事の内藤様。大学からは学長特別補佐の川邊様。同じく大学からは物理工学学科長の種村様。種村様は計測科を昭和 56 年にご卒業されております。お忙しい中お越し頂きましてありがとうございます。

会員からでございますが、オンラインということもございまして 60 名近くも多くのの方に、お申し込みを頂きましたありがとうございます。

オンラインの良さがございまして、遠方札幌からは三田村様。あと山梨からとか各地からご参加をいただいております。

さて、同窓会の良さでございますが、青春の多感な一時期を共に過ごしました仲間は時が経ち、立場が違えども会えば一瞬に心が通い合うところがございます。今日の総会がその場ということになります。よろしくお願ひいたします

この場が皆さんの心をつなげるこの総会でございます。スタッフ一同が心をつなげる準備してまいりました。今から短い時間ではございますがお楽しみください。さて、計測会、計測を少し振り返ってみます。今から 57 年前、昭和 39 年に第 1 回の卒業生の方がおみえになります。今日はその中から重田友五郎様にご参加いただいております。第 3 回目の卒業生からも 3 名もの方にお越しいただきました。河合様、小林様、先ほどの三田村様でございます。

その後、時を経まして今では計測科という名前はなくなりました。けれども、今までの流れの延長上に今日がございます。今から数年経ちますと計測会自体が 50 年という節目を迎えます。その後、未長く続くことを願ひますが、その架け橋の一つ、それは今日でございます。ところで計測会の役割と申しますか、目的は何かというと、言うまでもなく会員相互の親睦を深める。また、それを向上するということにございます。

もう 1 つ挙げるとすると、後輩となる学生に対して何か役立つことを取り組むことではないかと存じます。世界は今混沌としております。環境の悪化、紛争の増加、これから計測会に入らせていただくであろう学生はそれらの課題に立ち向かって行かなければなりません。それに対してどういふ支援ができるかということにございます。その為には 1 人でも多くの会員が必要です。今回、アドレスをご登

録いただきました 800 名余りの方にメールをお送りいたしました。一方計測系の卒業生は 3000 名に及ぶのではないかと存じます。それらの方々に情報を発信することができれば会員数が増えて、それが計測会の力になります。皆様のお知恵とご尽力が必要でございます。よろしくお願いいたします

この後の講演会でございますが「宇宙開発の戦略と成果の本質」と題しまして、宇宙航空研究開発機構 JAXA の元理事、山浦雄一様にご登壇いただきます。

宇宙開発の第一線でご活躍された経験を踏まえ、感動と情熱のお話が期待できます。ぜひ皆様もご期待ください

最後になりますが、皆様のご家族と皆さま自身のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたしますどうぞ、今日はよろしくお願いいたします

(司会)

続きまして、来賓の方々からご挨拶をいただきます。初めに名古屋工業会理事長 加川さん、よろしくお願いいたします。

(加川さん)

名古屋工業会の理事長を拝命しております加川でございます。昨年からコロナ禍の中、今回、計測会の皆さんが総会に漕ぎつけられ、御同慶の至りと感じております。大変ご苦労されたことでしょう。今年こそは平静に戻ることを期待しておりましたが、なかなかコロナが終息を得ず、われわれの工業会も恒例の講演会はできませんでしたが、何とかリモートで総会を開催いたしました。

今日は総会の後の講演も非常に興味深い演題で楽しみにしております。さて、名古屋工業界は全学同窓会として活動しておりますが、数年前からは新入学生の多くの方、およそ 8 割から 9 割の方が工業会へ入会をいただいております。ただ、それ以前は全体の入会比率が卒業生の 2 割ぐらいという非常に全学同窓会と言うにはちょっと心もとないかなという状態でした。みなさんの単科会の方が、おそらく卒業生の動向を把握してみえるのではないのでしょうか。

先ほど述べましたように、卒業生の多くが新入学時に会員になっていただいておりますので、これからは今まで以上に単科会との連携をして全学同窓会として充実させていきたいと思っております。

今回、私としては初めて単科会総会からのお招きを頂き、非常に良い機会をいただいたと感じております。

さて、名古屋工業会について少しお話をさせていただきます。ええ、名古屋工業界は大学の支援、特に学生のみなさんの学業や課外活動をフォローするのがメインの活動しております。ただ、収入のほとんどを新入会員の入会費に依存しておりますが、一方で会員が急増しており、今後も工業会を継続していくため、昨年より財政の見直しを実施しており、限りある運営費を効果的に使うように運営を心がけております。それと一昨年に工業会を名古屋工業大学の本部内に移転をしました。これは龍ヶ池交差点角にありました工業会館を耐震性不足からやむなく解体し、44 年の幕を閉じました。今後は学内のこういう会館に移転したこともあり、単科会の皆さんも気軽に立ち寄っていただければと思います。

もう一点、先ほど会長さんからちょっとお話がありましたが、大学の学科改修が進んでおり、かつての単科会の役割りがかなり変わってきております。実は私は金属科なのですが、現在では計測科と合体して物理工学科となっております。学問の壁をなくし、グローバルに活躍できる人材の養成が産業界からあり具現化されたと聞いておりますが、これにより単科会の意識がだんだん薄れていくのではないかと危惧しております。

したがってええ、全学同窓会と一緒に工業会の活動が特に重要になり、単科会と協力して卒業生の皆さんが、OB、OG 生活を有意義に使用されるような活動を続けていきたいと思っておりますので、今後とも単科会の皆さんともご協力をよろしく申し上げます。

以上を持ちまして、ご挨拶とさせていただきます

(司会)

ありがとうございました。

続きまして名古屋工業大学学長特別補佐、河邊さんよろしく願いいたします。

(河邊さん)

皆さんこんにちは。名古屋工業大学学長の木下隆利先生に代わりまして、学長特別補佐卒業生連携室長兼、寄付金室長の河邊伸二がご挨拶致します。まず初めに 2020 年は、コロナ禍の中の学生の緊急支援として 404 名の皆さんから 2000 万円を超えるご寄付を大学に賜りました。名古屋工業会からも 900 万円を超えるコロナ対応の寄付を賜りました寄付金室長としてご協力ご尽力くださいました方々にこの場をお借りして、心よりお礼申します。

さらに卒業生連携室長として、常日頃の多大なる大学支援に心より感謝いたします。

大学の近況と致しましては、大学院修士課程は 2010 年 4 月に改編して分野横断的なプログラム制がスタートいたしました。また、若手研究者を積極的に雇用する一方、女性限定のスタートアップ助教制度 2020 年 4 月から開設致しました。本学の給料もらいながら、社会人ドクターとして学位を習得して将来教員として活躍して頂く女性限定の制度であります。2020 年の春、教育改革の一環として新設しました 6 年一貫の創造工学教育課程から第一期生が卒業致します。さらに第 2 部を再編して、新たに基幹工学教育課程がスタート致します。再編により工学部は高度工学教育課程、創造工学教育課程、基幹工学教育課程の 3 本柱になります。

コロナ禍の大学は、2019 年の卒業式は中止になりましたまた、2020 年 4 月の入学式も中止となりました。しかし、2020 年度の卒業式と 2021 年度の入学式は、各学科各専攻の代表のみの参加で実施致しました。2020 年の授業はすべてオンライン形式でした。今年度 2021 年度の授業は対面授業とオンライン形式の隔週授業という特殊な状態で行いました。しかし、緊急事態宣言後は原則オンライン形式に戻りました。学生にとって常に最善の形態となるように対応しています。

今、名古屋工業大学は、学術分野を問わずコロナが加速する社会の激変に備え、技術の糸と心の糸が織りなすイノベーションの創出。人に寄り添う心で工学を確立し、心豊かな社会の構築に貢献してまいります。今年の計測会総会のコロナ禍の中における開催に際し関係者の皆様の準備など多大なるご努力に謝意を表します。今後とも名古屋工業大学を応援してください。さらに寄付金室長としてご寄付へのご理解とご協力をお願い申し上げます。教育・研究・環境の整理充実のため

の一般基金と若手研究者や課外活動を支援する特定基金があります。名工大基金で検索していただきますとご寄付できますので、切にお願い申し上げます。計測会の皆さんの今後のご発展ご健勝祈願いたします。簡単でございますが、以上でご挨拶いたします
学長特別補佐 河邊伸二。どうもありがとうございました。

(司会)

続きまして物理学科ええ学科長挨拶種村さんよろしく願いいたします。

(種村さん)

今日は、56年卒業の種村でございます。今日はお招きいただきましてありがとうございます。資料を作りましたので、それをご覧いただくかと思えます。

最初に、物理工学科の応用物理分野に改組されましたけども、その後も成績優秀者の学生さんに計測会賞を変わらず授与いただきまして、本当にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。せっかくですので、ちょっとだけご報告させて頂くと、2019年度はコロナでしたので、卒業式はございませんでした。祝賀会もございませんでしたので、その場で授与する機会がなくて、後日で、その時はちょうど大学も来ないでねみたいになっていたんで、学生さんも来ることができなくて、学生さんが来ることができるようになってから、学生さんにお渡ししました。その時は本当に同点だったので、2人の学生さんに計測会賞を授与しました。それが上のお2人です。それで2020年度の3月、こないだの3月は卒業式はあったんですけども、卒業式は代表者だけっていうことで、執行部の先生と学生さんの代表が出席して、それをオンラインで配信して、YouTubeで見ると、そんな形式でした。卒業証書の授与は学科ごと分野ごとで行いました。残念ながら祝賀会はございませんでした。右の下の写真が計測会賞授与の様子です。守田会長に来ていただきまして、計測会賞を加藤くんにお渡ししました。右の下の写真をご覧いただきますとわかるように、結構、大きめの部屋に皆さん、密を避けるのに離れて座ってもらって、なおかつご挨拶の人の唾が飛ばないように、なるべく後ろの方に座って頂いて、学生さんそうやって座ってもらって、授与をしました。

それで左の下の写真が計測会賞の加藤くんと、それから名古屋工業会の名古屋工業会賞の井上君と2人で、たまたま同じ研究室の学生さんだったので、2人でその時だけマスク取って、写真を撮影しました。こんなふうにして、ずっと変わらず計測会賞を本当に授与頂きましてありがとうございます。さっき河邊先生からも少しお話ありましたけれども、学校の様子がどうなっているのかというのをやっぱり多分皆さん一番気になるかと思うので、それを少しお話すると、こんな感じになっていまして。イベントがちょっと時系列でありますけども、2021年の入学式は4月の6日だったんですけども、式典はあったんですけども、入学生の方はYouTubeで見ると、そこにアドレス貼り付けていますけども、そのアドレスを見て頂くと、名工大のいろんなイベントの様子がYouTubeで配信されているので、ご覧いただけます。入学式がありました。それで6月に毎度オープンキャンパスっていうのがあるんですけども、これはできなくて、オンラインで実施しました。

8月になってからは、コロナの推移が書いてありますけれども、ちょうど8月の最初のあたりはコロナの感染の人がちょっと増えかかったかなというあたりだったんですけども、緊急事態宣言前だった

ので、8月2日に公開講座とそれから夏のオープンキャンパスっていうのを対面で実施することができました。公開講座の時の写真の様子もこのアドレスからご覧いただくことができます。

ちょっと後でまたご紹介しますが、こんなふうにして実施することができました。

それで本当だったら毎年10月にホームカミングデーがあるのですけども、これは去年も今年も中止です。工大祭、昔は6月にやっていたけれども、今工大祭は11月なのですけども、今年も11月の22,21なのですけども、残念ながらオンラインで開催ということになっています。

それでさっき河邊先生から少しありましたけども、研究室はほぼ通常通りの営業になっています。

なんですけども、蜜を避けましょうということで、例えばうちの研究室とかはローテーションで学生さんに何曜日はあなたが出てきてねっていうふうにして、ローテーションで来てもらったりしています。

それから授業は前後期とも対面とWEBを隔週で併用するっていう風になっています。ワクチンは夏休みに近隣の大学と共同で会場ができて、学生さんと教職員の人は希望者が摂取するっていうのは、そんなような様子になっています

はいそれで公開講座の様子を少しだけ、こんな感じで実施しました。

この右下のやつが、2019年のコロナ前の様子だったんですけども、こんなに密だったのですけども、今はコロナということで、すごい離れて、離れて離れて座ってもらって、最初オリエンテーションして、その後はそれぞれのテーマで分かれて、数人ずつで実習してもらおうというこのような形で、実習することができました。お陰様で無事に対面でやることができよかったですかと思ってます。こんな感じで、上手にコロナと付き合いながら、何とか工夫しながらやっているっていうところですので、引き続きよろしくお願ひします。ご挨拶に変えて資料をご覧いただきましてありがとうございます。

(司会)

続きまして活動報告、野村さんよろしくお願ひいたします

(野村)

資料に沿って説明致します。左上の活動概要ですが、昨年2020年はコロナ禍でしたので、活動実績はほぼ無し、ということです。今年2021年に入りまして、ZOOMで役員会を再開しております。ここまで4回実施をしております。でこの後、12月に5回目を実施する予定です。

それから2021年度総会講演会を、本日開催に至っております。

この後、11月に計測会報を発行する予定です。そこで総会の報告をする予定です。

その下ですが、役員会での主要議題、決定事故を列挙しております。4月には会長、森田さんからええ寺倉さんへ交代ということです。その下がちょっとはしりまして、協力金なんですけども、今年はお願ひしたいということにしております。その下の計測会賞につきましては、今、種村先生からご報告をいただいたところでございます。

一番下が、物理工学科の応用分野の卒業生を今後受け入れたいと思っているのですが、計測という名前がもう無くなってしまいましたので、現役の皆さんに、計測会をどうアピールして入って頂くかということが課題としております。右側は活動履歴ということで列挙しましたが、資料の方にも載

っておりますので、またご参照ください。右下ですが、もう来年のことを心配してしまして、総会講演会のご意見ご要望をお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

(司会)

続きまして決算報告会を会計の西村さん会計監査の森田さん、よろしくお願いいたします。

(西村さん)

会計担当の西村より 2020 年度の会計報告と 2021 年予算案を説明させていただきます。2020 年度はコロナによる緊急事態宣言や蔓延防止措置の発令により外出自粛を求められ、計測会におきましても総会や講演会等を中止させていただきました。その結果、収入は 2019 年度からの繰越金とそれに対する利息。支出は 2019 年度計測会賞の商品 2 名分の立替え分と、2020 年度継続計測会賞の商品 1 名分の支出のみでした。その結果、収入は 562,206 円。支出は 34,695 円で 2020 年度の繰越金は 527,511 円となります。

続きまして本年度の予算案を説明します。今年度 2021 年度は総会を WEB 開催としたため、皆様からの総会開催時にいただいていた運営協力金は集めないこととしまして、収入は 527,511 円の前年度の繰越金と名古屋工業会からの補助金 7 万円を見込み、合わせて 597,511 円となります。また、この工業会の補助金というのは、単科会が行事を行った場合に申請すると、補助してもらえるもので、今年度は総会講演会を補助対象として申請予定であります。

また予定する支出は 2021 年度計測会賞、商品 1 万円と卒業祝賀会の協力金 2 万円、総会の講師謝礼金等 5 万円、総会運営費 1 万円、役員の旅費 4 万円、各支部の支援金 2 万円の合わせて 15 万円を見込んでおります。従いまして次年度 2020 年度への繰越金は 447,511 円になる予定であります。ご参考までに平成 21 年 2009 年度から令和 2 年 2020 年度までの繰越金の推移を示したものがこのグラフであります。年々右肩下がりとなっておりますが、運営協力金などの収入を維持増加させることによって、今後も年間 50 万円程度の予算が確保維持できるようにしていきたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします

以上で会計報告を終了いたします。ありがとうございました。

(守田さん)

会計監査の守田です。2020 年度の会計決算案、会計監査の結果をご報告致します。帳簿、通帳ともに適正で正確に記載されておりましたことをご報告いたします。以上です。

(司会)

続きまして役員紹介。寺倉さんよろしくお願いいたします。

(寺倉さん)

役員を今からご紹介します。卒業年次順に名前を言います。それぞれ短時間で自分を少し紹介してください。まず守田さん。

(守田さん)

47 年卒業の守田です。会長在職中は誠にお世話になりました。今後は一役員として寺倉会長の

足を引っ張らないように、計測会の運営に協力して行きたいと思います。実はですね、本日朝 6 時 45 分より顧問の大鹿さんと老体に鞭打ってキャッチボールとノックを近くの公園で行いました。このようなご縁をいただいたのもですね計測会のお陰であると非常に感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

(大鹿さん)

47 年卒業の計測会顧問をしております大鹿でございます。

計測会設立からちょうど 44 年経ちました。ずっと学年幹事から名古屋支部長、今顧問に至るまで関わっております。10 年ぐらい前からは計測会から名古屋工業会の方に役員として送り込まれ、今も理事として役割を果たそうとしております。今日の顔ぶれを拝見しておりますと、やっぱり改めて恩師と教え子それから先輩と後輩のふれあい、これは寺倉さんもおっしゃっていましたが、同窓会の良いところだなあと改めて思いました。引き続き計測会、名古屋工業会のご支援よろしくお願ひ申し上げます。失礼致しました。

(西村さん)

私は 2016 年から計測会の役員をしております。昭和 48 年卒業の西村と申します。

今までは実務のない平役員で作業は結構サボることが多かったのですけれども、今年は実務の伴う会計担当を拝命致しました。70 歳の老体に鞭打つてもうひと頑張りさせていただこうと思っておりますので、これからもよろしくお願ひいたします。

(大鑄さん)

F49 の大鑄です。計測会にはかれこれ、もう 20 年ぐらい関わっているかと思うんですけれども、まあだいぶ年になりまして、あとですね、どれぐらい頑張れるか分かりませんが、出来る限り協力をさせていただきたいというふうに思っています。今後ともよろしくお願ひいたします

(寺倉さん)

梅田さんは、今日はちょっとご都合が悪いようですね。

(小川さん)

東京支部長の小川です。東京支部長を前任者から引き継いでですね、今 7 年目になっております。東京支部なのですけども、以前は結構、東京で活躍された方が多かったのですが、最近では若い人が全然来なくてですね、みんな年を取るばかりになっていきますので、その中でどういう事が出来るかっていうのをコロナ後に活動再開しますけれども、考えていきたいと思っておりますので、皆さんよろしくお願ひします。

(坂尾さん)

55 年卒業の坂尾です。計測会の大阪支部長をやっています。それと同時に関西の方では、工業会の関西支部の幹事ももう 20 年来やっています、ちょうど来週、工業会の関西支部の総会があります。また、計測総会と同じように WEB 形式でやりますので、よければ皆さん参加してください。コロナになって公私とも非常に忙しくなって、工業会も計測会もあんまり働けていませんが、これから頑張っていきたいと思っております。皆さんよろしくお願ひします。

(野村)

昭和 55 年卒の野村です。去年役員になったばかりでして、今回色々書類作りとかですね、役が回ってきました。また来年の総会に向けて頑張りますので、よろしくお願いします。

(小澤さん)

59 年卒の小澤です。本日、司会をやらさせていただいております。たくさんの参加本当にありがとうございました。今後も宜しくお願い致します。

(米谷さん)

F60 の米谷です。事務局をやっております。現在は名工大の物理工学科におります。宜しくお願い致します。

(伊藤さん)

昭和 63 年卒業、伊藤です。現在、川崎重工業航空宇宙システムカンパニーに努めております。昨年東京に異動になりまして、企画の仕事しております。よろしくお願いします。

(寺倉さん)

寺倉です。これで一応全員ですね。このスタッフでこれからも取り組んでまいります。宜しくお願いいたします。

(司会)

続きまして、会場からスピーチの方いただきます

最初に名古屋工業会常務理事内藤さんよろしくお願いします。

(内藤さん)

昭和 43 年、建築卒の内藤でございます。

現在、常務理事をやらせていただいておりますが、本日は計測会の総会・講演会にお呼びいただきまして誠にありがとうございます。特に、この後の講演は、宇宙産業の 8 割が集まる当地区としてはぴったりのテーマでもありますし、私も建築屋ですので、現役のときから実は宇宙開発に若干携わってまして、宇宙ステーションだとか、月面開発とかそういうのを一生懸命やっていた頃がありましたので非常に楽しみにしております。工業会としての話は、理事長がお話しされましたので、基本的には言われた通り単科会との連携がこれからの鍵です。特にしっかりされている計測会のような単科会との連携が、全学同窓会に向けての鍵とっておりますので、今後とも宜しく連携をしたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

(司会)

続きまして、昭和 54 年卒。現在、京都先端科学大学工学部の学部長の田畑さんよろしくお願いします。

(田畑さん)

皆さんこんにちは。F54 で卒論は石川先生、そして F56 修士の時は内藤先生にご指導を頂きました。修士卒業してから豊田の中央研究所に入りまして、先ほどご挨拶された物理工学科長の種村先生や会計担当の西村さんとはご一緒させていただいていました。

豊田中研に 15 年いたのですが、その間に社会人博士で山田先生のご指導を頂いて、ドクターを

取りました。その時、今日もご参加の内藤先生とは同じ研究室でいろいろ 3 年間過ごさせて頂きました。1996 年に立命館大学に移りまして、その後、2003 年に京都大学に移りました。京都大学では F56 だと思うんですが、松野先生とずっとご一緒させていただいてました。

そして、縁がありまして、2018 年に京都先端科学大学の工学部の設立に関わりました。2019 年にこの京都先端科学大学に移りました。ご存知かもしれませんが、日本電産というモーターの会社の会長 永守さんが私財、今までにトータル 180 億円を投じて、この大学で今、改革をしています。その改革の目玉の 1 つがこの工学部です。この京都先端科学大学は、京都市の右京区京都の東西線の太秦天神川という駅から歩いて 2 分、京都駅から行っても 15 分で、比較的交通便利なところにあります。ここに 2020 年 4 月設立で工学部を作りました。1 学部 1 学科の構成で機械電気システム工学科という名前で定員 200 名です。機械電気システム工学科というのは名前からお分りの通り、分野横断的な学びが 1 つの特徴でこれはまさに計測工学科の学びのスタンスに通じているなと思っています。今年の 9 月には留学生を 50 人受け入れまして、残念ながら 7 人しか対面では、入学式に参加できなかったんですが、残りは全部海外から遠隔で今、授業に参加しています。2024 年には半分、つまり 100 名を留学生にして 100 人日本人、100 人留学生という形で進めていく予定にしています。私としては、この工学部の設立は、日本の工学教育に一石を投じたというふうに思っていて、例えばすべて英語で教育をしています。EMI、English Medi Instruction といっていますが、日本の工学部で 1 学部全部まとめて 1 年生から全部英語で授業をするってところはここしかありません。さらに演習とか実験実習を非常に充実させていることや、3 年生から企業の現場の課題に取り組む、必修科目としてのキャップストーンという科目を設けたりと、非常に特徴的なカリキュラムを作ったつもりです。一方、このコロナ禍、それからいろいろありまして 2020 年の初年度は学生 100 名。200 名の定員と 100 名しか受け入れをしていません。ある程度の質を確保したのでこうなりました。さらに今年の 4 月も 100 名でしたので定員 200 名に対して 100 名ずつしか受け入れてませんので、学長からは 4 年間で 10 億円お前たちお金使ってるぞっていうふうに言われてますが、まあそれでも永守理事長が 180 億円を寄付してますので、まだ大丈夫だろうと思って、ここは我慢のしどころだと思っています。長くなりましたけれども、私は、この大学の工学部は非常にユニークだと思って、教育の内容には自信を持っているんですが、いかんせん知名度がありません。是非皆様のネットワークを活用して、皆さんのお知り合いに、いっぺんこの大学のホームページを見てご覧っていうふうに言っていただいて、我々の教育の中身を見ていただきたいなと思っています。そしてその上で、ここに進学してもいいかどうかのご判断を頂ければなというふうに思って、今日はお時間いただいたので、同窓生諸氏にお力添えをお願いしたいと思っています。どうぞ皆さん、京都先端科学大学の工学部のホームページを一度見るようにお知り合いにお進めください。よろしくお願ひします。以上でございます。

(司会)

続きまして、今年の新卒の若者で物理工学科長の種村先生の教え子でもあります大杉さん。よろしくお願ひいたします。

(大杉さん)

こんにちは。ご紹介に預かりました令和3年卒業の大杉と申します。今年、種村先生の下でご指導を頂き、卒業させていただきました。現在、社会人一年目となる訳ですが、名古屋工業大学計測会でこのような総会に参加させていただきまして、大変嬉しく思っております。今回の総会に先立ちまして、本日ご出席されております大鹿様よりも御本をいただくなどして、早速計測会のこの横のつながりというものを強く感じております。これから働いていく中で、いろいろわからないこととか、社会に対してどういったことを行っていけばいいかなど、まだまだわからないことも多いので、ご先輩方のご指導のほど賜りまして、これから頑張っていきたいと思っております。本日は簡単ながらもありますが、これにてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

(司会)

お時間もだいぶなくなってきましたので、最後に元名古屋工業大学学長の鵜飼さん、ちょっと無茶ぶりですけど、宜しく願いいたします。

(鵜飼さん)

皆様改めましてこんにちは。鵜飼でございます。昨年の3月まで学長を務めておりました。学長在任中には計測会の皆様には大変お世話になりましたことを改めて厚く御礼申し上げます。また、本日は名古屋工業会から加川理事長、内藤常務理事、それから事務局長の三田さんも参加されているということでございまして、在任中は本当に同窓会と二人三脚でいろいろ活動しておりました。懐かしく、また楽しい6年間でもございました。改めて厚く御礼申し上げたいと思います。昨年3月に退任しまして、その後、愛知東邦大学という大学に転職致しまして、今年の4月からまた愛知東邦大学の学長を務めております。愛知東邦大学というと、あまり皆さんご存知ないと思うんですが、野球で有名な東邦高校の上にある大学でございます。まだ大学として昇格して20年という若い大学でございます。また名工大と違って文系大学、経営学部、人間健康学部、教育学部の3学部からなる、本当に小さな総勢1500名ぐらいの小さな大学でございますが、また引き続き学長職と言うことで、もう少しだけ高等教育に力を注いで参りたいと思います。また、いろいろ皆様とはいろんなところでつながりができると思いますし、お世話になるかと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。最後になりますが、計測会、大変難しい時期にこういう総会・講演会を企画していただきました寺倉会長、それから役員の皆様、そして大変お世話になりました守田前会長には改めて敬意を表するとともに感謝を申し上げたいと思います。どうも今日はありがとうございます。

(寺倉さん)

小澤さん、あと1分半ほどありますね。39年卒、1期生の重田さんに顔だけでも出していただけると良いかと思いますが重田さんどうでしょうか。

(重田さん)

重田でございます。39年卒ということは1960年、もう61年前になります。卒業後の計測会、三代目の会長をやらせていただきました。本当にその頃から思いますが今日までこの計測会、大学のコースが色々変わっている中で、こうして綿々と続いていることを非常に素晴らしいことだと思っております。その間には、いろんなことがありましたけれども、歴代の会長、それから会員の皆さん、それから学校の先生方のご協力でここまで来たと思っております。本当に一回生としてありがたく思っております。

有難うございます。今後ともどうぞ皆さんの力でこの計測会が続いていきますよう祈念しております。
ありがとうございました。

(司会)

どうもありがとうございました。

総会のプログラムは、これにてすべて終了致しました。皆様のご協力でスケジュール通りに進めることができました本当にありがとうございました。以上で計測会総会を終了いたします。

14時から講演会を開始致しますので、それまで休憩と致します。本日はありがとうございました。